

第 14 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 17 年 12 月 17 日（土）午前 9 時 30 分～午後 0 時 30 分

2 場所 長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室

3 出席委員

中村 正行委員長	若麻績 享則委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
中沢 一委員	坂口 昌夫委員
小山 元彦委員	小山 壽一委員
塚田 芳樹委員	宮本 精一委員
市川 浩一郎委員	丸山 稔委員

4 開会

（三澤教育支援主事）

皆さま、おはようございます。

それでは時間となりましたので、始めさせていただければと思います。お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日もよろしくお願いいたします。

委員長さん、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

それでは、第 14 回の高等学校改革プラン推進委員会を開催いたします。

まず事務局から、他の推進委員会の様子など、きょうは資料もございますので、資料の説明をお願いしたいと思います。その後、委員の皆さんから地域の情報、あるいは団体の情報等ご紹介いただいて、議事に入っていきたいと思います。

事務局、よろしくお願いします。

（三澤教育支援主事）

それでは、よろしくお願いいたします。

最初に、ほかの推進委員会の様子をお伝えさせていただきたいと思います。前回 12 月 10 日でしたが、本日までの間には 12 月 11 日曜日に第 13 回第二推進委員会、東信地区でございますが開催されております。内容といたしましては、望月高校を多部制・単位制に転換するという地域からの提案について、前回から継続して論議がされております。

地域の協力が得られることがメリットであるという意見や、交通の利便性については疑問があるというような意見が出されております。多部制・単位制高校の配置は、鉄道沿線が望ましいという意見も多く出されておまして、望月高校、蓼科高校を統合する案とも関連するため、第 6 区の再編について引き続き検討していくという状況でございます。他の推進委員会の状況については、以上でございます。

以下高校教育課三澤教育支援主事より資料説明 【説明内容省略】

(中村委員長)

それでは、委員の皆さんから資料説明、それから他の委員会等の状況についての説明に対して質問がありましたらお願いいたします。

(丸山委員)

すみません。私が忘れていたならば失礼ですが県議会の研究会がまとめた提言についての資料はいただいておりますでしょうか。

5 項目でしたか県議会の研究会提案の文書が出ているんじゃないですかね。それは資料としていただきましたでしょうか。

(吉江高校教育課長)

県議会から直接、正式に私ども教育委員会にはちょうだいしていないですが、入手いたしまして、またあらためましてお配りしたいと思います。

場合によりますと、次回でよろしければ、次回お配りしたいと思います。

(中村委員長)

はい、お願いいたします。

ほかにご質問はありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、各地域あるいは団体から情報をお持ちの委員さん、ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

あと本日各願う会、あるいは個人の方、それから中条高校を育てる懇話会さま、それから中条高校校友会さま、それと中条村議会さまより文書を頂いております。皆さんのお手元にも行っているかと思しますのでご覧ください。

資料説明の関係で、何かありますでしょうか。なければ、議事のほうに移りたいと思います。

前回私のほうから、本日まとめに向けての骨子を出すというようなことを申し上げましたが、まだ議論が全部済んでおりませんので、少し急ぎすぎという気持ちもあります。それから文教委員会の動きもありまして、きょうはまだお出ししないということをお願いしたいと思います。

それからいったんもう一度、この推進委員会の進め方についてご意見を伺っておいて、スタートしたいと思います。今までの方針どおりでよろしいでしょうか。意見がなければ、前回お決めいただいたとおり進めてまいりたいと思います。

それでは前は旧第3、第4通学区と議論してまいりましたので、第4通学区を中心に検討いただきたいと思います。前回途中であったのは長野南高校と松代高校の統合について、皆さん方のご意見はかなり方向がそろっていたように思います。これについて、まだご意見はありますでしょうか。

(塚田委員)

実は私、前回は欠席したものですから、ここでちょっとどんな議論が出たのかわからないので、あるいはダブリになってしまうかもしれないので、そのことについてはちょっとおわびを申し上げなければいけないと思います。

まず、前回多分その南と松代の統合ということで話が出たと思いますが、私はまず南と松代、この統合はやむを得ないだろうと。大きな改革プランの流れの中では、南高と、それから松代の統合というのは、これは致し方ないだろうと思います。

それで、その2つの高校の統合を前提として、ちょっといろいろな統計を見たのですが、まず県教委で出していただいたたたき台に対する候補案についてということで、これの8ページですかね。

7ページから8ページにかけて、統合の根拠ということで示していただいておりますが、このうち、統計的な数字だけ比較ということで見させていただいたのですが、南高、それから松代ともに地元から、それからいわゆる3区、4区から生徒が通っているということで、その数字を見た場合、まず地元からどうかということなんですが、まず南高の場合は広徳と更北ですね。これでちょうど50名、割合でいくと20.7%。

それから松代高校の場合は松代中学が44名で、21.9%。地元からの割合は、ほぼ同じであらうと思います。それから、いわゆる旧3区。いわゆる中心部、それからこれはきっと北部も含めてのかと思いますが、これはいわゆる入学の難易度というのは、ちょっと別に考えてみて、3区から入学してくる生徒たちの数を見てみると、南高が61、それから松代が26ということで、数の上では当然南のほうが地理的にも中心部、それから北部にも近いということで、南高のほうが多いということがわかります。

それから南高、松代ともに第4通学区からも通っているということで、この数を見てみますと、南高が130、松代が131ということで、数の上からいくとまったく同数と見ていいと思いますが、これは先ほどのいわゆる難易度ということは別にして、両方の学校に同数の生徒が4通学区から通っているということは、これはいわゆる通学の利便性ということを考えてみると、南高も松代も4通学区からの通学利便性ということでは、まず同じなのではないかという推測をさせていただきました。

それと実は、長野市の教育委員会で、長野市の地区別の15歳年齢人口というのを出示していただいておりますが、これは各年度の、各地区の15歳の年齢がどのように推移していくかということで、市の教育委員会でまとめた資料ですので、一応信頼性はあるだろうということで、これを基にお話をさせていただきますが、これは平成17年度と平成31年の15歳の年齢、各地区別の年齢のいわゆる増減を調べた資料がありますが、それによりますと南高の地元であらうと思える場所が篠ノ井、川中島、更北、この3地区があるんですけども、平成17年と31年とのいわゆる人口の増減を見てみますと、篠ノ井地区が15歳人口でいくと65名減る。

それから川中島は14名減る。それから更北は逆に、64名増えるということで、この3地区を全部合計しますと17年から31年で全体で15歳年齢は15名減るという推測がされています。

それに対して、松代は17年から31年で103名減少するという統計が出ております。これは、すべて統計を全部調べたわけじゃないのですが、この範囲の統計で見た場合、まず

地元ということでは、ほぼ同じ。それから、3 区の通学区では南高へ下りていっている。それから 4 区からの通学ということでは、利便性はほぼ同じであろう。人口の増減という、減しかないのですが、減り方を見ると南高の周りや松代の周りでは、松代の減り方のほうが多いであろうという統計が出されており、このもろもろの統計を、全部総合してみると、これは絶対的な結論には結び付かないのですが、県教委で示していただいた南高と松代の統合はやむを得ないだろう、これは私も賛成で、これは前提にせざるを得ないと思いますが、統合した場合、使用する校地校舎をどうするかということで、県教委案では松代を使うということなんですが、今の統計から見ると私は南高のほうの校地校舎を使う、これを検討してみる必要があるのではないかと思います、前回、もしそういう案が出ていればダブリになりますが、ちょっと提案させていただきます

（中村委員長）

はい。今、塚田委員からのご意見、ご提案ですが、その観点はまだ議論しておりませんので、ぜひこの場で議論をいただきたいと思います。

今までと逆で、長野南高校の校地校舎を利用していく方向の統合を進めるというご意見だと思いますが、これに対してのご意見はございますでしょうか。

（市川委員）

今のご提案も、私も理解できないわけではないと思うのです。それだけ今回のこの長野南と松代高校の問題というのは、非常に課題が多いと私は感じております。前回は質問させていただいたと思いますが、この地域の人口動向あるいは交通の利便性から見ても、なぜ南がなくならなければいけないかという疑問は、私が持っているということは発言させていただきました。

ただだからといって、松代を南へ統合するということは、まだ私も提案はさせていただいていないのですが、実はこういうような提案が出たとすると、松代高校の、例えば学校関係の方々とか地域の方々、今まで松代は存続であるという前提に置かれて、今日まできていると思うので、全然議論をされていないような感じがしております。

そこへ途端に松代という問題が出てきて、地域の波紋を投げかけるような結果になるかもしれませんが、もしこういうものが出たとしたら、やっぱり相当検討をしなければならぬのではないかと、早急にこの場面ですぐ、どちらがどうということを結論を出すのは、非常に私は危険があるし、問題があるのではないかなと思っております。

前回、若麻績委員さんからもちょっとお話をいただいたと思いますが、長野市としても南高校の問題、その松代高校の問題、存続というような問題も出てしていると聞いておりますし、そこでこの場面で早急に結論を出すのは問題だというふうに思って、ひとつ私のほうから逆提案みたいなことをお願いするとしたら、やっぱり南と松代の中で統合というものは、視野に入れて検討して、時間を取るべきではないかなと思います。

そして例えば、3 年後か 5 年後かわかりませんが、その間にもう一度再検討して、そこで統合という問題を結論出していくというのはいかがなものかなと。前回は、時間を取るべきだということを私は提言をしたと思いますが、ここで早急にこれを、もうあと何回かでしょうか。その中で、結論を出すのは非常に難しいかなという疑問を感じております。

(中村委員長)

はい。ご議論をいただいて結論が出るかどうかは、その議論の内容によると思いますが、今新しい観点でのご提案ですので、それに対して課題あるいはそちらのほうがいいというか、そういうご意見をいただきながら、少しご議論をいただきたいと思います。

前は、長野南高校を存続させるという点のご意見がかなり強かったように思いますが、そこには統合に反対するというお立場の人は、強く主張されていた方はいらっしゃるかなったように思うのですが、今の統合も含めて、統合はやむを得ないというようなご意見を塚田委員からいただきましたし、それから校地校舎の利用が南だったらどうだろうということですので、その点やはりご議論いただいて置いたほうがよろしいかと思うのですが。

(丸山委員)

前回、私のほうでは数字的なことを言いましたが、この長野南と松代の統合問題というのは反対だと、はっきり私は言ったはずです。かなり問題があるということです。それは前回言いましたから詳しくは言いませんが、前回ちょっと平成31年のことを言いましたけれど、平成31年は最初の県の試算のところでは、平成31年というのはなかったはずですが、平成31年はかなり減りますが、この前も言った繰り返しになりますが、これは3区ですね。旧長野市も含めて考えると、長野南と松代を統合して1つ減らすという問題は、これは残った学校が大規模校になり、それから今の通学、流入流出の問題をどう考えるかと。

それからきょうも資料が出ていますが、南高ができた経緯ですね。そういうところからも考えて、これはどっちに統合するかというような問題ではなくて、もっと根本的にこれは長野南と松代を統合するとすると、私は意味がまったくわからない。この前県教委で、私反論しませんでしたけど、説明してくれて言ったけど、ポイントはなんだったって言ったけど、事務局案の文章を読んだだけでしたね。

あの文章は、まったく説明になっていない。前にも言ったけど、あれは長野南と松代を統合した場合に、こういう説明がつくよという説明だけなんです。何で幾つかある中の、地域がある中で、いろいろな数字を検討した上で、何で長野南なのか、松代なのかというところが、まったくわからないのですよ。

だからそういう部分を、きちんと基本的な議論をしなければだめですよ。私が言っているように、平成30年までは一定規模、教育力が維持できる一定規模の学校で維持できるんですよ。だからそんなのを無理してやると、最初のころ8学級、9学級というのがいっぱい出てくるし、しかし県教委はどう考えているかというと、県教委の案は北にある、北部にある学校の数を一程度確保してと言っているんだから、それは結局そのところを大規模校にしない限りはもたないんですよ。違うほうに行けるんですよ。

それは須坂のほうへ行けということになるかもしれないけど、だから須坂が出ていないという話なんかもしれないけど、その2区の、須坂地区も含めて考えると、これは統合すべきじゃない。これは、はっきり申し上げたいと思います。

(清水委員)

前回のこの会で、私もちょっと発言させていただいた内容として、まずは一点長野南高校が統合されてなくなってしまうということの妥当性というか、整合性というものがどうしても理解できないということで発言をさせていただいたと思うんです。

それは今でも変わらない気持ちですが、その時点においてははっきり申し上げて松代高校うんぬんというところまでの考えに至ってはいなかったんですが、確かに丸山委員さんがおっしゃることもわかるんですけど、前提としてまず校数を減らしていかなざるを得ないということを前提に考えている以上、やはりこの長野南と松代の問題は、どちらか一つにまとめていかなざるを得ないのではないかなというふうに考えております。

学校要覧をいただいております、それぞれの長野南と松代高校の状況、特に出身中学校別生徒数というもので比較した場合に、何とも言い難い部分がありますが、しかし両校とも子どもたちが、みんなとは言いませんが、かなりの生徒数の割合で自転車通をしているという現状を耳にしております。

やはり松代高校の立地条件、そういったものから考えても、長野南高校の建っている立地のほうが、子どもたちにとっては通学がしやすいのではないかなという考えを、私は持っております、基本的に先ほど塚田委員さんからお話があったことには、私は賛成ができるなという気持ちでおります。

(塚田委員)

繰り返しになるんですが、先ほど市川さんから、市川さんは松代の地元なので、当然そういうご意見があるかと思いますが、先ほども市の教育委員会を出していただいた数字、もう一度申し上げますが、これは絶対数ですが、平成 17 年度の松代の 15 歳の人口が 202 名、それから 31 年が 99 名ということで、半減なんですよ。

ですので、やはり松代の高校へ進学する子どもたちの数が、これからどんどん減っていった半分のになってしまうだろうという現状を考えたとき、もし松代の統合ということを考えたときに、はたしてその時点でまた地元からの進学が少ないということで、あらためて考えざるを得ない状況が生まれてくることも、可能性としてはあり得るということで、南の校地校舎を使うことはどうだろうかということでご提案申し上げたということです。

(中村委員長)

はい。確かに松代の校名が挙がりますと、今度はその地域での議論をしていただけるのではないかという、そういう期待もございしますが、それには時間が必要です。ですので推進委員会として結論まで出なくても、方向性あるいは第 1 通学区全体を通して、南に統合していく点でのメリットあるいはデメリットを議論しておいていただきたい。

それから、まだ統合には賛成できないというご意見もございしますので、それも含めて少しお願いしたいと思います。

(小山(元)委員)

前回でも申し上げましたが、更北地区の現状、川中島地区で申し上げましたように、非常に現在、住宅がどんどん建てられていて、非常に今後発展的な地域であるということ。やはり15歳までの、先ほど人口が指摘されましたが、それから先のことをやはり考えていきますと、旧3区よりもやはり南の、犀川から南のほうが、今後大いに発展していく可能性が大きいんじゃないかと、そういう見通しを持っているわけです。

そこで流出の話も前回申し上げましたが、やはり更北、川中島地区というのは、調整区というので、県教委でも認めておられた地域ですが、当然旧3区へ流れて来ているということは、県教委の方針で示されていた内容でございますので、これは地域でそれを最大限に活用して、やはり進路指導等行っていっちゃったんだということだと思います。

やはり長野南高の、あの広大な敷地、そしてまた地域の方々の寄せる思いというのは、非常に強いところがございまして、やはり長野南高、松代と統合するという、それで松代へ持っていくというその考え方、私もどうもはっきり理解できないという立場があるわけございまして、松代高校のはちょっとさておきまして、やはり長野南高は今までのこの人口の地域の様子を見たところで、あれはそのまま存続すべきではないかという、それは考えております。

(中村委員長)

はい。統合ということはさておいて、南高は残すというのはほぼ一致したご意見だと思います。新しく上がってきたご提案の、南高の校地校舎を利用するという点で、課題等お気付きの点があったらお出しいただきたいと思うんですが。

あるいは、ほかのご意見でもよろしいかと思います。

(森野副委員長)

はい。いろいろご意見を伺う中で、31年の人口推移、それから私が一番感じることは、その地域の人々の理解と熱意じゃないかと思います。

そうすると南高を、今まで数限りなくいろいろな資料を提供しているわけですね。これは私は熱意が、人を動かすのではないかなと思っています。そしてやはり、古くから言われるように、教育は人なりと言われている。やはり教育に投資しなければいけないと思うんですね。

そんな意味で、その人とは誰か。教師だと思うんです。だから南高の先生、あるいは松代の教員もそうだと思いますけど、この先生方が、この教育改革の先頭に立たなければいけないと思うんですね。

丸山委員さん、あるいは小山委員さん、現場でやられておりますが、やはり現場の声を聞くことが一番じゃないかと思うわけです。

そんなわけで、その先生のやるんだという思い、こういったことを、その思いに期待を、私どもかけるわけなんです。そういう意味で、その先生方の思いという方向へ持っていきたい。そうすると、やはり南を残すか、松代を残すかじゃなくて、全体的に考えていっていただきたいなと思っています。

(丸山委員)

この前私は、数字ばかりの資料を配りまして、またそれを見ていただきたいのですが、この問題は、さっきも言いましたが旧3区と4区、その関係。それから須坂の地区ですね。2区の須坂地区。多少は中野方面も関係しますが、その流れのところを見なければいけないんで、全体として前から何遍も言っているんですが、3区も含めて、例えば具体的に言いますと3区ですよ。

これは皐月は4学級総合学科と言っているんですよ。だから4としますね。あと地域高校は2学級になっていくということで、それは認めるというわけで、そういうふうによつていくと、8学級、7学級というのがいっぱいできていくんですよ。

そのことと、この松代と長野南との統合というのはかかわってくるわけです。だからどっちかという問題ではなくて、どっちも残しても十分一定の規模が保てるということ。ただ31年になったら、かなり減る。そこはそれでまた考えなければいけないというのは、これは県教委も言っているわけです。31年については、これは後で考える問題だと言っているわけですよ。

だから30年までは、ここはそういうことで規模を保っていけるということ。そういうことを、やっぱり全体で考えないとね。松代地区だけ見たり、長野南の周辺の数だけを見てみるとダメだしね。全体を見ていかないとダメですよ。

そういうことで言うと、やっぱりこれはどっちにという問題ではないと思います。

(中村委員長)

南高の校地校舎を利用する方向での議論が進みませんので、丸山委員のおっしゃっていることについて少し議論したいと思いますが、ご提示いただいた資料ですね。これは、第1通学区全部を見渡して考えていくと、統合しなくてもかなりの学級数で、31年ぐらいまではいけるという、そういうご説明でしたが、ちょっとわからないのは、周辺校、地域校ですね。その辺は大丈夫なんでしょうか。

すべての高校が通学できる範囲に、難しいところはありますけれども、あると思いますので、もし統合せずに学校が残っている場合には分散される。その結果、やはり通いやすいところに集中していくと考えると、周辺校がかなり苦しい立場に置かれるんじゃないかなと思うのです。

それから2学級は許容するということですが、私は中学生の立場、これから高校へ入っていく立場を重要視したいのですが、学級数には下限規模というのはわからないではないのですが、ある程度やはりもう少し必要じゃないかなと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

(丸山委員)

ひとつその2学級の問題、もちろん一般的に言うと、そういうことが委員長さんがおっしゃったように言えると思います。ただ、これで数で、要するに2でなくてもうちちょっと学級があったほうが良いというのは一般的には言える。ただ地域高校の場合に、もともと地元は少ないわけだから、だからこそ検討委員会は2というのを基準でも維持するべき、学校は維持するとしたわけですよ。

だから無理してここを4や5にして、都市から行くということで埋めるということにはしないほうがいいと思うんですよ。できるだけ地元のところの数を見ながら、2学級でも維持すべき、学校は維持する、そういう考え方だと思うんですよ。

そういう点で、確かに一般的に言うと5学級とか6学級とか、そういう学校がいいのですが、しかし地域高校については2でも維持するという、そういう意味だと思うんですね。だからこれは、ひとつそういうふう考える。

それからもうひとつ、無理して残していくと地域高校のほうに行かなくなる。危なくなるんじゃないかと思いますが、これは今だってそうですが、募集定員というのは一応埋まる形でつくっているはずですよ。ところが、そういうことで穴が空いたりする場合が出てくるわけですよ。その問題をうまく考えていけばいいわけであって、全体の数としては間に合う数になっているわけですよ。

そういう意味で、全体の数として確かに埋まるどころか埋まらないじゃないかという話になるのは、それはまた別問題。はっきり言わせてもらえば、学校格差の問題。だからそれはそれで別問題なんで、一応じゅうぶんその生徒が、進学する生徒がじゅうぶん入りきれぬ数を確保できるかどうかという問題になるわけですよ。

だからそれを埋まらないから、どんどん都市部のところを大きくしていくということになると、これはまた地域の学校はどんどん減っていくわけですからね。そういうことです。私が言っているのは数の問題で見ていくと、確かにぎりぎりだけれども、例えば第3区でいうと30年は49学級ですよ。

49というのは、19年も49なんですよ。18年も49なんですよ。そうすると、48というときがありますが、第3区については30年までは、今と変わらない学級数なんですよ。31年が、44に落ちるわけですよ。だからさっき言ったように、31年については県教委も後で考えなきゃいけないと言っているわけだから、取りあえず30年ぐらいのところまで見ていくわけだから。

もっと言うと、31年のことで議論するとしたら、もっと減らさなきゃダメですよ。県教委の案は、31年はもたないですよ。そこまで、大蛇振るっているわけではないですよ。ということは、31年を見ているわけじゃないんだ。県教委の案も。ということは、30年というのは3区でいうと49学級、今と同じですよ。

それから第4区だけ見ても、19年度は37学級、30年度は34学級ですよ。3学級だけです。そんなに大幅に減っていかないんですよ。そのところを通常3区、2区の一部、3区、4区の全体を見る必要があるということ。だから私は、基本的には学校数を減らすというのが前提なのかという問題は、意見が違ふ委員さんがいるかもしれないけど、私は数の問題、数を減らす問題だって、合理的根拠はないと思っていますから。

全部まったく減らすなどとは言っていませんよ。だけど、その数の問題は、出てきた数6なり、5なりを完全にやり切ることがいいのかというのは、地域ごとに検討した結果、それが無理だったらそれはやらないでもいいわけじゃないですか。そうでなかったら、この地域ごとの、学区ごとの推進委員会をつくった意味がないんですよ。地域の意見も、聞いた意味がないんですよ。

地域ごとに、細かく検討してみたら、この地域については減らさなくていいと。それを集めてみたら、5や6にならなかったけど、それはそれで合理性があるといったら、それ

でいいわけじゃないですか。そういうふうに思います。

（宮本委員）

全体的な数字のことについては、いろいろな影響とか、いろいろあると思いますが、私は中学校の進路指導をやっている、今、4区の屋代にいますが、今までは4区の中で希望校を聞いていけば、人数的にある程度まとまったのですが、年々遠くへの流出が多くなっているように感じて、いろいろ調べてみますと特に4区から3区へというのが、もちろん多いのですが、平成14年度から27、39、338、372というふうに、だんだん上がっているわけです。

それと最近考えているのは、5区への流出というのがかなり多くて、平成14年度8名、15が23名、16が123名、そして17年度は144名ということで、今年もうちの中学校の場合に、交通の便の良さという要因もあると思いますが、また結構多くなっている、やはり4区だけの問題でも、ちょっとなくなってくるんですが、かなり5区とか流出がかなり激しいんじゃないかな、年々多くなってくるんじゃないかと思っています。

いろいろなところに影響を与える数字ですが、今後また、今年度も多くなるんじゃないかと今のところは予想していますが、なかなか地域のほうの意見とか、まとまりにくいものもありますので、かなり神経質なところもありまして、ちょっと難しいところもあります。

ただ数字的に見ますと、年々交通の便がいいということで、地区だけで見ますと少しずつ減っているという数字が出てくるんじゃないかなと思います。また今後も流出については、ちょっと多くなるんじゃないかなと、現場とすればそういう感覚を持っています。

（市川委員）

先ほどの意見とダブると思いますが、今、松代高校という名前が出たときに、改革に対して松代高校の中で議論がなされていないというご意見が、ちょっとあったような感じがしますが、これは当事者でない限り仕方がないんじゃないかなという感じはしております。

だから熱心じゃないというのではなくて、やっぱり今のところ松代高校の関係の皆さん方というのは、どうなるかわからないが、静観しているという立場だろうと理解しておりまして、こういうご意見が出た、これからがほんとの議論になってくるんじゃないかなと思います。

ですから先ほど、委員長が言われたように、そこで結論を求めるのではなくて、検討する時間もいただけるというお話がございましたので、これはじゅうぶん検討して結論を出すべきだと私も思っています。

ただ基本的には、こういう少子化ですので、やっぱりこういう統合というのはやむを得ないという前提の中で議論をしていくことも必要ではないかなと思っています。

（中村委員長）

ありがとうございました。

熱心さということであれば、先ほどご紹介を忘れましたが、長野南高の設立の経緯の文章をいただいております。委員の皆さんの名前も挙がっていますので、お手元に届いてい

るかと思いますが、これはやはり早めに校名が挙がったことで、かなりこういう資料を準備等されてきたそういう熱心さだと思います。

松代が熱心ではないというようなことではなくて、検討の過程ではどこの高校の名前が挙がるかは、これはわからないことですし、どこも対等に名前が挙がるはずですが。

ですからここで今、松代を移すというようなご提案ですと、やはり地域で少し考えていただく時間も必要ではないかなと思います。またそうしていただきたいと思います。他地区もありますよね。静観していращやるところがあるかと思うんですが、問題がないわけではないと思いますので、そういった課題はこの機会にやはり地域で何か会を立ち上げるなり、県民として県の高校をもり立てていく方向でご検討いただきたいと思います。

推進委員会の議論は、やはり日程が限られているということで、進んだところまでの報告というふうになるかと思いますが、結論が出るかどうかはちょっとわかりませんが、やはりいったん出たご提案に対しては議論をしていただきたいと思います。

今2つの高校を、そのまま残してやり、校数は確保していくべきというものと、統合はやむを得ないという、両方出ておりますが、この辺は、ほかにはご意見ございますでしょうか。

(小山(壽)委員)

突然、利用する校地校舎が長野南という提案が出てきたわけありますので、当然松代高校にとってみれば、初めて出たそういう意見をいただいたということで、これから早急に、じゃあ松代の人はどう考えているのかというようなことが出てくるんだろうと思います。

ただ基本的にやはり少子化、あるいは高校の適正規模等々考えていけば、やはり統合は進めていくべきであると思っております。よく長野へ来る会議のときに、長野インターで下りるわけですが、そうしますと特に夏などインターを下りたところで川中島方面から、非常に大勢の生徒が自転車で松代へ向かっていく。逆に松代からも自転車で川中島方面、今井方面へ向かっている生徒を見かけます。

そういう意味では、相当自転車を使った生徒の出入りというのはあるんだなということを見ております。そういう意味でいうと、屋代線というのはどの程度の交通の利便性ということ考えたときに、評価し得るのかということは、例えばこの再編整備候補案の中で松代行きのことは挙げてあるわけですが、これについては考え直す必要があるんじゃないかと、そんな思いも持っております。

いずれにしても、やはりさまざまな課題は出てくるわけですが、やはり統合は進めていくべきである。ここで進めておかないと、後に禍根を残すであろうと思っております。またたびたびこれも申し上げておりますが、平成31年に行く前に、さらに新たな統合の問題が出てくると。20年代半ばには、もうすぐ出てくるだろうというようなことも感じております。

今回上がっていない地域においても、必ずやそういう課題が出てくるだろうという感じは持っております。

(若麻績委員)

中学生は、今ちょうど3年生が受験の、個人面接が終わりまして佳境を迎えているわけでございます。

その中で、今日この中で松代との関係、新しい視点から出たということは、受験をする子どもたちにとってみれば、若干の動揺があるのかなという気はいたすわけではあります。ただやはり一番はまだ大きな理解を得られていないような気がするんですが、19年スタートで、ほんとにこれができるのかどうかという部分に、やはり疑問を感じます。

将来的に必ず統合というものはあってしかるべきと私も思っておりますが、やはり地域の方や県民といった視点でより深い理解がされた上で進めていかれることは、やはりベストであると思っておりますので、混乱の中で生まれていることは「よし」とはしないんじゃないかという気がいたします。

そういうしてから、やはり19年度スタートに県教委の提案はかなりこだわっておられるような部分と、それから23億円という財政的な削減というのがありますが、やはりその中でもすべてがそこで一気にスタートできない現状もあってしまうんじゃないかということで、この南高、それから松代も含めてもっと、先ほど出ておりますように、少し、もう少し広い視点で検討されていかれることも、私は重要だと思っています。

(中村委員長)

ありがとうございました。

一気にスタートできないであろうというご意見ですが、この辺事務局にちょっとご説明いただきたいというのは、私は以前から思っていたのですが、文教委員会での葉養元委員長のご発言等でも、同時スタートは無理ではないかというようなことが、先ほどいただいた資料にあったと思いますが、これは各地域で議論が済んでいないところ、あるいは間に合わないという言い方はちょっといけませんけれど、あらかじめ定められた期限内にじゅうぶん検討が進まなかった場合には、そこは推進委員会としては結論は多分出さない方向でいくと思います。

ただ方向性はお示しできる可能性もありますが、そういった場合に19年度一括スタートという、一度にスタートするというのは、どういうイメージを持っていたらよろしいんでしょうか。

(吉江高校教育課長)

過日の文教委員会におきまして、先ほども委員長さんからお話ございましたように、前の検討委員会の委員長でありました葉養委員長さんから、いわゆる学者としての私見というようなお話の中で、そのようなご発言をいただきました。

それでそれとは別に、私もその場には陪席をしておりましたので、お聞きする中で、ただ一方今回いただいた検討委員会の最終報告の中には、またあらためまして後ほど委員さん各位におかれましてはご覧いただきたいと思いますが、報告書の16ページから17ページにわたっては、長野県教委として今までこの急減期において、じゅうぶんな対応をしてこなかったと。それについての、逆に立ち遅れた対応ということの中から、現実を踏まえた方策を早急に取ることが求められるというような報告も、反面いただいております。そ

んなことも、まず受けているのが一点でございます。

それと私どもは、従来から申し上げておりますが、基本的には5月29日の第1回目の折にもご説明いたしましたように、大前提として各推進委員会におきまして、今年から年始めまでの間に、ご報告をいただいたのを受けて、速やかに実施してまいりたいと。

そうした場合には当然ながら、18年度には間に合いませんので、19年度からぜひ実施をしていきたいというようなスタンスでございます。このような形で、いろいろな議論をいただいておりますし、またそれに伴って今も若麻績さんからもお話しいただきましたように、中学生に与える影響等も当然ながら勘案した場合には、ある程度のスピードを持って実施していきたいというようなものが、基本的な私どものスタンスでやっていることでございます。

（丸山委員）

質問というか意見ですが、今のは前からそう言っているんだけど、もうちょっと厳密に考えてほしいんですね。例えばですよ。改革が立ち遅れていたと。立ち遅れているから急いで改革をしなければいけないと、スピードを持ってやらなければいけないと。そういうことは、そうかもしれません。

そういうふうにとらえているのかもしれませんが、私この前もちょっと問題にしたり、今も委員さんからもありましたが、当面の一番の問題は、この前も言いましたけど、中学3年生、今これから受験を迎えている中学3年生が、自分の学校がどうなるかわからないまま受験をしているということなんですよ。

そんなことをやっている県はありません。この前、群馬を視察しましたが、いつから実施というのは、2年、3年前から発表しています。だから、縦分けで考えてもらいたい。スピードを持ってやらなければ不安があるんだから、一定のスピードを持ってやらなければならぬって、それは一般論ではわかりますが、いつまでもわからないまま、不安なままずっと続くというのは、それは大変だってわかるよね。

例えばですよ。計画はいつぺんに出したとして、全部19年にやる必要はないじゃないですか。19年にやるということは、そういう今言ったような、今の3年生に対するきちんと説明がないまま、受けさせているということになるわけだから、少なくとも20年実施がスタート。そうすると、今の中学2年生には、この学校は統合するよということが説明されて、統合しても「いいや行くか」と、「僕たちが最後だけ行くか」となるかどうかですよ。

少なくとも20年実施じゃないと、これはおかしいですよ、明らかに。しかも葉養さんが言っているのは、学者としての私見と言っているけど、だけど検討委員会をやった委員長さんですよ。だからそれは地域によっては年次的に、計画的にやっていてもいいじゃないかということなんです。それが常識でしょ。それは例えば県教委は、そのようにいつぺんに19年にバサッとやらなければ立ち遅れている、そんなことはないんですよ。

計画は発表すればいいじゃないですか。例えば20年、21年に「ここをやります」とかね。21年から3年間でやりますとかって発表すれば、それは県教委は頑張って検討しているということじゃないですか。19年に全部やらなければ立ち遅れるってことではないと思います。

そのところ縦分けで考えてください。こういう議論を、いつまでもやれとは言ってい

ないです。そうすると確かに不安のままずっと行くわけだけど、そういうところをきちんと、もうちょっと考えてもらいたい。少なくとも 19 年実施というのは、これは何というか、子どもたちに対して説明をしないままやるなんて、こんな乱暴なことはダメですよ。そこは少なくとも考えてもらいたい。

（中村委員長）

また元に戻したいと思いますが、松代、南高校に関して、ほかにご意見がありましたらお願いします。

（坂口委員）

ちょっと質問でよろしいですか。

お願いいたします。

先ほどから人口の流入、生徒ですね。3 区、4 区、あるいは 5 区も含めて、これは交通の利便性と同時に、やはり学校間格差等々の歴然としたものもあるという、こういう意見もありますし、学校の魅力というようなこともおありだと思います。

その中でちょっとお聞きしたいのは、県のほうでは松代へ統廃合と。再編後のイメージのところで、現在の松代高校の地域と連携した教育実績という、そういう説明がございませう。長野南の教育実績、それから松代のそういった地域と連携した教育実績、具体的内容で、これはどんな形で、ここへ文言として載せたのか、ちょっと説明いただければありがたいかなと、そんなことを思いますので、お願いいたします。

（中村委員長）

事務局、お願いいたします。

（三澤教育支援主事）

はい。松代高校についてであります。地域との連携ということで松代高校では、その地元の商店街との連携によりまして、お店を経営していたりですとか、地元から広告の依頼を受けて、広告を作成するですとか、そういったような体験的な実習を地域に連携してやっているという状況がございませう。何年も前から取り組まれている実践例でございませう。

長野南高校のほうは、まず教育課程で類型制を取っている中で、さらに学校設定科目というのがあります。学校設定科目というのは、文科省の学習指導要領、これに載っていない科目でも各学校で設定をして、独自にやらせていく科目ということになりますが、そういうようなものを多く取り入れた教育課程を持っております。

さらにクラブ活動につきましては、他校にないクラブ、アーチェリー部ですとかボクシング部、ハンドボール部というようなものが多くございませう。概略ですが、それぞれの特徴がございませう。

（中村委員長）

坂口委員、よろしいでしょうか。

(坂口委員)

それぞれの学校の特色、魅力ということは今、簡単にお話しいただいたわけですが、その教育実績という言葉が、非常にある面では強い部分が松代のほうにあるのかなと読ませていただいたわけですが、これは例えば長野南に校舎を移したときに、こういった教育実績、地域との連携というものは、かなり薄くなるというような、そういう意味合いで松代へという、そういう思いでしょうか。

(中村委員長)

多分それは、各校の魅力づくりは、私は以前から申し上げていますが、対等というふうに考えますし、統合という場合には、やはりそのやってこられた実績を引き継いでいく、それもじゅうぶん検討された上でのことでしょうか、あまりこことここで、魅力をてんびんにかけてという、そういう理由じゃないように思いますが、事務局、いかがでしょうか。

(柳澤教育主幹)

今、それぞれの学校の特色、そしてこれまでのいろいろな教育の積み上げてきた実績、それぞれの良さを生かして統合していくというのも、基本的な考え方でございまして、生徒の通学の利便性、いろいろなことを考えて、どちらの校舎を使うかということを考えて、候補案をお示ししたということでございます。

(中村委員長)

坂口委員、よろしいでしょうか。

(坂口委員)

はい、その点では結構です。

確かに今、お考えの中で南高の跡地をと。当面校地が非常に広いというような、そういう活用すべき、そういう部分もあるというお話もお聞きし、長野市の子どもたちの、中学生の動きからして、どうしても川の南には学校数が少ないと。そうすると、どうしても北のほうに流れていく、これはもうどうしようもないひとつの現実であるかなと。

そんなときに、ほんとにこの松代と長野南が1つになるということの良さというのは、非常に難しいかなと。やはり長野市の教育委員会ともちょっと話をしたときに、やっぱり拙速な統合は避けていただきたいという、そういう思いを受けております。

そういったときに先ほどから実施時期の問題と、どうしてもこうつながってきってしまうかなと思います。そんなことで、先ほど葉養委員長さんの文教委員会での答弁のように、非常に時間がかかると。逆に2ページのこの葉養参考人、委員長さんのお話として、学校にはいろいろな思いが詰まっているので大変なことであると。長期の整備計画を作って、どうやって実施に移すか、地域の了解を得ながら跡地利用も合わせ考えながら、実施計画を年次で作っていくことだろうと思うと。

これは新聞で一部記事を見て、葉養委員長さんは、そんな思いで検討委員会でいろいろ動いていたんだなということを、あらためて理解できたわけでありますけれども、やはり

19年度から実施というのは、やはり中学校の現場としても非常に厳しいなという、そんな思いから、この松代、それから長野南についても、この統合あるいは残す、もうちょっと時間をかけないといけないんじゃないかなということ、あらためて思っております。

（中村委員長）

ほかにご意見はございますでしょうか。

なかなか校名が挙がらないと議論が進まないというのもあったり、それから地域ではご検討をいただきたいといっても、母体になる方等が大変難しいかなと思います。

でもぜひ、推進委員会ではある程度の方向性は議論いたしますが、ほんとに松代を南に移すかどうかというお話は、松代地区でぜひ広く、いろいろなお立場の方で議論していただきたいと思うのですが。

ほかにご意見がなければ、「統合はやむを得ない」、それから、「いや、統合をしなくても下限2学級の影響も含めて、このままで」というご意見、それから「統合する場合には南高校と松代、どちらの校舎を使うのか」、その辺に関しては、もし統合するとしたら南高校。統合するとしたらいいですが、南高校の校舎校地は利用していったほうが、通学あるいは長野市の川の南側に住む人の通学に便利、あるいは学校がそこに必要というご意見だと思います。

もしこれ以上ご意見がなければ、次の議論へ進めたいと思いますが、何か虫食いの議論になってしまいますが、なかなか難しいものですから。また戻ることはあります。

（清水委員）

本日初めて松代高校を長野南ほうに統合して、長野の校舎を利用するという話が出てきて、先ほど小山委員さんのほうのお話を同じくするとは思いますが、やはりこれは松代地区の方々にしてみれば大きな問題にならざるを得ないだろうとは思いますが。

とりわけ松代高校に関しては、創立が明治39年でしたか、非常に伝統校でもございますし、その学校を取り巻く関係者というか、地元のそれぞれのお立場の方も含めて、いろいろな方が携わっているということから、これは相当大きな課題というか、そういった問題になるということは、この時点でもう容易に想像できるわけなんですけど、ただ私が思うに、恐らく塚田委員さんもそういった意味合いでご発言されたと思うんですけども、長野南と松代の問題、この2つの高校の問題に焦点を絞った場合には、先ほどお話ししましたように、統合ということを前提に考えた場合には、松代を長野南に統合するという選択肢もあるんじゃないか。そういった議論も必要なんではないかという意味合いで、私は考えているのです。

それがいいとか言うんではなくて、そういった議論をする余地というのはじゅうぶんあるんじゃないかなと。そこら辺については、むしろ県教委さんのほうにも私はご質問したいんですけども、その点についてはこの原案を作る段階において、お考えになる余地はなかったのかどうか、ちょっとお聞きしたいと思います。

（中村委員長）

この案にまとまる経緯ということでしょうか。

(清水委員)

はい。

(中村委員長)

では事務局、お願いいたします。

(吉江高校教育課長)

かねてより、この案以外のことについて、どのような案があったのかというようなことも含めては、実のところお答えをしていないのが経過でございます。決定した内容が、この再編候補案であるというようなことの中でお答えしてきたわけなんです。その過程の中では、それぞれ当然ながら校舎校地を、例えば私どもの提案がどちらがいいのかというようなことは、当然ながらそれぞれの検討というのはしてはいるのは、当然のことでございます。

ただ私どもとしますと、その結果としまして過日も申し上げましたように、やはり松代の、言ってしましますとその先が地蔵峠というようなことで、第5区とのつながりの問題、あるいは確かに自転車通学が多いというのは、両校共通的に言えることではございますが、とりわけどちらが多いかというのはさておいて、共通していることですが、それ以外の交通手段として鉄道というようなもの、もちろんバスもありますけれども、そういうものがあるというような、いわゆる通学の利便性を考えた場合に、3方向の通学手段になるというようなことも加味して考えた場合に、松代高校がいわゆる校舎校地ということでは、適地ではないかと考えた次第でございます。

ただ、前々から申し上げておりますように、私どもは基本的にいわゆる統合校というようなものは、どちらが丸々残るかというような認識ではございませんで、そういうような交通の状況等を考えた上に、いわゆる適地として松代高校を校舎校地の利用ということで考えたということでございます。

(丸山委員)

私の基本的な考え方は置いておいて、今の問題をちょっと、もう少し厳密に議論したほうがいいというのは、それでは県のほうは、名前はどうか分かりませんが、松代地区には高校は置いておくべきであると考えたということですよね。

確かにこの文章には、「交通の利便性などから見て」と書いてありますね。その説明というのは3方向に行けるという話でした。裏が山だから、3方向ということでしょうね。鉄道の両方と、それからバスで長野市内のほうへという、そういうことなんだろうと思うけど、それはあんまり説明になっていないと思うんですよ。

長野南は、じゃあ四方八方に行けるという話になるんじゃないですか。バスだけで、鉄道はちょっと厳しいということですよ。ただ鉄道は遠いというところはありますよね。そういうことがひとつ。だからそういう点では、松代の町に高校は必要だという観点があるってということなんじゃないですか。それが一番大きいんじゃないですか。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

「どここの地区」に学校が必要だ、というような前提で考えたわけではございません。それで3方向というのは、私は「3つ通学の方法が可能である」ということで申し上げた次第です。それとさらに申し上げますと、それぞれの地域におきまして、いろいろな事情があるのはどこの地域でも、まったく同じだと思っております。

だから私どもとしては、ひとつの案としてこういう案をお出しいたしましたが、かねてより申し上げているように、これがイコール決定事項というような形では出してございません。第1通学区においては、ある意味これからご議論いただくようなことにつきましても、具体的には多部制・単位制につきましても、ほかのご提案もいただいているということであれば、私どもが仮にこの案を、もうこれ以外の案がないというようなことでお出ししたとすれば、こういうような推進委員会の皆さま方に議論をしていただく必要はないというお話になってしまいますので、その点はこの案自体がどういうものであるかということをご理解いただきたいと思います。

(塚田委員)

繰り返しになりますが、きょう初めて私の案を提案させていただいたのですが、私は基本的には全体の少子化の流れの中では長野南と松代は、統合はやむを得ないだろうということを前提に考えさせていただいております。それは今でも変わりません。

その中で、先ほど申し上げたように統計的なものを見ると、校地校舎は南のほうがいいんじゃないかなということで議論をしていただきたいということで提案を差し上げたのです。

その中で、ひとつ提案をさせていただいた責任として、先ほど市川委員さんからもありましたが、今まで松代の校地校舎ということを熱意なく、それについて訴えてこなかったということであって、やはりここで私がそういう提案をさせていただいた中で、これから多分議論が始まるだろうということを言われましたが、ぜひそれは議論をしていただきたいと思いますし、ひとつ私は非常に今回印象深かったのは、飯山北の同窓会の方々が、同窓会独自でやはり自分の地区のことを考えられて中間報告を出されたというのは、大変すばらしいことだったと言うことで、あらためて強く印象を持っていますが、今回私がこういう提案をさせていただいたことで、ぜひ松代地区でも高校の関係者含めて地区全体でも、もう一度、そんな議論もあるんだということを、ぜひ議論をしていただければ非常にありがたいということです。

先ほど市川さんから、「これからだ」ということをお聞きしましたが、ぜひそれはお願いをしたいなということをお願ひさせていただきます。

(宮本委員)

松代に名前が挙がったということについて、いろいろな県の説明もありましたが、確かにひとつの案ということで、いろんなことを検討するのがこの委員会の趣旨だと思います。

ただ今回の案について委員会としての方向性を、県に答申する期日が、やはりあとわずかしかないということで、ここに松代高校という名前が出たことについて、確かに今の塚田委員の話だと、これから議論をお願いしたいと、当然だと思いますが、やはり地域としてはこれからということに関しては、やはり時間がかかると思います。

これから、もう少しこの結論を延ばすというなら話は別ですが、今から話し合ってくださいというのも、確かに多部制・単位制のときにも、名前が新しく挙がったときにも、いろいろ皆さんと話し合う中で、地域の人たちが話し合った中でも、かなり時間がかかるという現状があります。

それで、じゃあ同じように平等にということになると、やはり難しい段階かなという気がしますが、皆さんどうでしょうか。

(清水委員)

ただいまのご意見ですが、私もそうは思いますが、やはりこの委員会は委員会として、ある程度のまとめというものを今年度中にやるという目的で、期限を区切ってやってきているわけですね。

その中で結論が出ないからと、先ほど委員長さんもおっしゃったように、結論が出なくても私は仕方がないと思っています。出せるものなら出したほうがいいでしょうが、出ないものについては無理やり出す必要はないと思います。

もっと言えば、実施の時期についても、この点については、私は丸山委員さんとまったく同感ですが、一斉にやる必要はないと考えております。ただいまの、その松代の話もそうですが、やはりじゅうぶんな時間を取って議していかなければいけないことだと思うんです。

それは結局、この委員会から離れてしまうかもしれませんが、それはその地区、それから県教委との連携の下にじゅうぶんな議論していくべきだと思っています。

確かに、もう年も押し迫って、あとどのくらいやるかはわかりませんが、まだまだ議論が出されていない、手付かずの部分というのはあるわけですね。こういったものについては、結局まとめ方にもよると思いますが、結論なんてとても出るとは考えられないし、一応この委員会が出た意見をまとめた状態で、県に提出するという形でしかあり得ないと思っています。

(小山(元)委員)

われわれが最初に県から示されたのが、第1通学区は6校削減という、非常に厳しいご注文を頂いているわけですね。それでいろいろ考えて今まで議論してきていますと、じゃあすぐに6校削減のところへ絞れるかというと、やはり非常に難しいところがあるなと思います。

ですから今まで議してきたところで、県教委のほうへは方向性を示して答申していけばいいんじゃないかと考えているわけです。そしてやはり他地区と違いまして、2、3校削減

の地区ではなくて、6 という非常に厳しい数を考えていく上では、やはり段階的に取り組んでいただいてもいいんじゃないかと。

そういうことは、やはり地域のそれぞれの実情から見ていって、今のようにまた松代というお話も出ますと、これから今までなかった内容でございますから、松代地区の人たちは大事にそれに取り組んでお考えいただくし、早くから出されていたところは、飯水岳北のようにスタートが早かったところもございます。

というところで、名前が挙がったその地区でまた一生懸命考えていくという、まだこれから先違う地区も出るかもしれません。そうしますと、今まで対象にならなかったところでは、また大事に考えられるというので、ほんとに高校のあり方について、その地区では大事に取り組まれるというのは出てきますので、一斉にスパッと県教委で19年度からというお話もございますが、段階的な方法でもやはり考えていくところは同じではないかと考えています。

その点、方向性を示していくところでまとめていってもいいんじゃないかということを発言したいと思います。

（市川委員）

この2つの問題、一番最初に私が申し上げたように、松代として初めて挙がった問題を、これから議論するとなると、やっぱり時間はかかる。これは現実だと思います。

長野南の名前が挙がって何カ月議論されたように、松代もこのくらい必要かもしれません。それでこの中の委員会の結論といいますか導きとしましては、私が一番最初に申し上げたように、長野と松代の統合に対しては、その視野に入れなければならないというのを、私も前提に置いていますので、その視野に入れた中で両方で検討すべきとして、ではいつというのはちょっと私もわかりませんけれども、いつまでごろに結論を出すようにしたらどうですかという、どうですかということもないけど、いつまでに結論を出すというような方向ではいかがでしょうか。

（中村委員長）

前回か前々回か忘れてしまいましたが、私はまとめの上では両論併記のようなことはせずに一定の方向性の報告にしたいと申し上げました。

それは、第一推進委員会だけわがままを言うわけにはいかないという、その思いもあります。それはやはり全県で、統一の基準で第1通学区が比較的多いんですが、6校削減というのが提案されているわけです。

推進委員会の立場は基本的には、やはり再編を進める立場で議論すべきと、私は中学生の立場を考えてそういうふうに思って進めてきましたけれど、大方の委員さんも多分そうだと思います。

進める上では、やはりそれなりに地域の実情を加味していく必要があって、丸山委員のおっしゃるように10年間ぐらいは変わらないのというご意見もあるかとは思いますが、そういうところも含めて報告には載せたいと思いますが、一定の方向を示さないところだけ何もお構いなしで、このまま現状維持で先送りをするというようなことは、ちょっとまずいのではないかなと思います。

それからもうすでに、中野、飯山地区で、削減の方向で議論をしていただきました。多少の方向は、ベクトルの方向がそろっていないところはあるんですが、ほぼ行き着く先は同じなのかなという、そういう結論になると思います。

そちらだけが削減ということになりますと、第一推進委員会内部での高校間の流入流出、あるいは地区の流入流出等で、非常に大きな影響を与えるわけですね。ですから、ある程度方向性を示した計画が立てられるような報告にしていかなければいけないというふうに考えています。

段階的というのも、それも当然そういう皆さんのご議論であれば結論に入れていけるのではないかなと思います。

（森野副委員長）

今の委員長さんのお話を承りながら考えもまとまってきたわけですが、やはり高校選択は、子どもの選択であろうかと思うわけです。ですから私が極端な乱暴な言い方を言いますと、やはりその学校、あるいは地区で自助努力をしたけれども、下限の2学級には達しなかったというような事実を前に出していただきたいかなと、そんなことを思うんです。それが一番手取り早いかなと。校数を減らすというような意味からすればね。

そんなことで、受検者数、それから努力したけれども満たなかったというようなところをまず前提として考えていただければいいかなと。ですから段階的に、あまり急がないで、その地域の実情に照らしていったらいいかなものかなと、そんなふうに思うわけです。

それから先ほども丸山委員から出ておりますが、学級数で、校数でなくて、やはり私は1人1人の子どもというものを考えたときに、やはり学級数は維持していただきたいかなと思っております。

（丸山委員）

委員長さんのおっしゃったこと、そういう方向としては、まとめるというのはそういう方向性を出すということだということなんで、それはしょうがないかなと思いますが、率直に言って中野地区の話をちょっとしますが、私は中野地区についても個人的には疑問を持っているということは、この委員会でも言っていますが、全体としてはそういう大きな流れに進んでいる方向性になっているわけですね。

実際中野実業と中野高校が、新たな総合学科をつくっていくということになるわけですよ。そうすると両方とも学校が、地域はもちろんです、学校がその気になって、職員がやっていかなければいけないんですよ。それでわれわれ自身も、中野高校もそうですが、中野高校でやってきた実践や経験や伝統を引き継いでもらいたいと。当然中実のほうでも、そういうふうに思うわけですね。

その辺で突き合わせていくのは、非常に大変ですよ。ただ中野の場合には、いい条件は非常に近いということです。しかも中野市の中にあるので、あまりその辺は地域としての変な言い方でエゴとか対立とかはないわけで、地域全体としてしょうがないから統合していけばいいんじゃないという話になれば、お互いに協力し合っているものをつくっていくということになるんですけど、この松代と長野南の問題は、そこが難しいところですね。

松代という地域と長野南の地域は違うわけですよ。やっぱりどちらも学校は置いておい

てほしいという気持ちは地域にはあるでしょうね。だからやっぱり、もし方向性を示すとしたら、これはもうどこを使うかという方向性は示さなければここで、委員会で示せるかどうかわかりませんが、委員会ではどっちかわからなかったという話になるかもしれないが、計画を出すときにはもう地域に任せるということでは、これはもうまとまらないですよ。

「松代と長野南でどっちをつかうか話し合いをやってください」なんて、とてもじゃないけどそんな話にならないですよ。そういう点では、やっぱり計画を立てるとき、この推進委員会で校舎をどっち使うかということをまとめられるかどうかは難しいかもしれないが、方向性を出すのは難しいかもしれないけど、実施計画の段階では、それは責任のあるところで、こういう理由でどっちを使うんだということをはっきりして、両方がそれを納得した上でじゃないと、県教委が言っているように、吸収合併じゃなくて、両方が特色を生かしながら新しい学校をつくっていくということにならないと思います。

（中村委員長）

ということで、南高の校地校舎を利用していく上での課題、今ひとつありました。松代と南高の話し合いというのは難しいのではないかと。意見をまとめていくのは難しい。それは地域が少し離れている。同じ市内ですが、どちらも同じ市内ですけど離れている。

何かそういった面で、南高の校地校舎を利用する上での課題等ありましたらお願いします。

（若麻績委員）

県教委さんの、最初のこの提案について、南高の案を作られた中で、もしこういう考えがあればお聞かせいただきたいと思いますが、広大な南高も校舎の横に、県の施設が付随していたかと思いますが、何か先にそこで計画的な県の跡地利用地ですか、そういうような構想があるのか、もしくはここには書いてありませんが、当然そのことも今後大きな課題となっていくと思うので、もしあればお考えをお聞かせいただきたいと思います。

（中村委員長）

事務局、お願いいたします。

（吉江高校教育課長）

今、若麻績委員さんからお話がございましたように、今現在確か健康づくり財団の施設があったかと思います。

それでオリンピックの時期には、あそこに警備センターが入っていたとか、いろいろな形で使われていた施設ではございますが、ただ私ども、今の南高をどうするから、そこをどうというような利用をしなければということを前提では、まったく考えておりませんので、そういう意味では、そういうような計画的な跡地利用は考えていないということでご理解いただきたいと思います。

(中村委員長)

南高の設立経緯のところには、情報教育センター、情報処理センター、あれは近くなのでしょうか。あれは県の施設ですか。

(吉江高校教育課長)

以前は、そういう施設がありまして、そこがだんだん衣替えをして現在に至っているというようなイメージでご理解いただきたいと思います。

(中村委員長)

それではリフレッシュをしたいと思います。20分まで休憩ということで、よろしいでしょうか。

では20分まで休憩をお願いいたします。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは、再開したいと思います。

先ほどの議論の続きでお願いしたいと思います。

(中沢委員)

はい、いいですか。

先ほどの、長野南と松代の問題はなかなか難しいと思います。まあ長野南を設立するにつけても県の大きな施策として、そこへ設置したという経過もあるし、現在も子どもたちがそれなりに通っているということであろうなとも思います。

松代高校そのものを見ても、あれは旧の松代町の本当の歴的な学校だということで、ある意味においては、地域校的なそういった特色もあるかなと、こんなふうには思っているもんで。両方できたら存続する道を探ることが大事ではないかと思います。

併せてこういった幾つかの論議の中で、多部制・単位制そのものにつきましても、坂城あるいは屋代というお話の中で、長野にもないのか、というような疑問を常に呈しておったわけですので、こういった松代あるいは長野南、そしてまた周辺の篠ノ井、あるいは更級。こういった地域でそういうことが、どこがいいのかということ、もう一度皆さんに知恵を出し合っていて、それを含めた論議がほしいと思っております。

それともうひとつは、ひとつの実施についてでございますが。私どもは県から今年中に検討しろと、こういうふうに依頼されたわけですので、そういった線に沿ってひとつの考え方を示していくべきであると思います。

ただ先ほどから出ておりますように、19年の実施という話になると、論議を聞いていてもなかなか無理があるなと思うそのものについては、この推進委員会の意向がまとまれば、これは段階的にとか何かそういったものの要望を強く出すことによって、責任を果たしていかなければまずいと思う次第でございます。

そんなことを感じたもので、よろしくお願いします。

(中村委員長)

はい、もう少し広く関係しているところを、ということですが、いかがいたしましょうか。他にございませんでしょうか。

もしなければ、多部制・単位制を含めて議論を進めたいと思いますが。ただ、松代と長野南に関して、結論らしきもの、あるいは方向性らしきものというのは、なかなかまとめるに
くい状況であります。

ご意見ないようですので、多部制・単位制の配置についての検討へ移ります。これは推進委員会のかかなり早い段階でご検討いただいておりますので、もう少し今度は具体的に、坂城高校あるいは対案として挙がってきた、別の候補案として挙がってきた屋代南高校の転換。この辺について、ご意見を伺っていきたいと思います。

候補案の9ページに坂城高校の多部制・単位制高校への転換ということで、再編後のイメージ等も含めてあろうかと思ひます。

屋代南高校への転換に関しては中沢委員からご説明いただいた、地理的な関係等、それから交通の便等の理由、いろいろ挙がっているかと思ひます。

また普通科が、全日制普通科が1校の町よりは2校3校と複数あるところから、ということのご意見だったと思ひますがどうでしょうか。

議論のきっかけとしては、この委員会で議論した中には、都市部で交通の便がよい所に多部制・単位制を設置すべきということが、かなり強く出ていたように思ひますが。この辺からお願いしたいと思ひます。

(宮本委員)

基本的には私自身は前から言っているように多部制・単位制の高校が必要だなと思ひます。それでどこに配置するかということについては、また検討しなければいけないと思ひます。

交通の便ということで以前、屋代南高校という案が出てきました。それで屋代南高校のほうでも、もう私も何回か行ってきて見たりしましたが、確かに屋代駅の近くにありまして、交通の便はいいかと思ひます。

屋代南高校へ行ったことのある皆さんはわかると思ひますが、第一印象としてかなり狭いのです。あそこの学校は。まあ都市部にという配置ということになると、しょうがないと思ひますが。

学校要覧を見ますと、幾つかの学校の敷地面積でいたい一般的に、例えば先ほど出ました長野南高校は4万6,000の敷地がありますが、屋代高校は4万。この前見てきました松本筑摩というのは4万3,000あります。飯山南ですが5万5,000ぐらいあるんですけれども、そこに比べますと屋代南は2万しかないんですね。かなり小さくて、駅には近いですが、ちょっとその辺のところ、どういうネックになるかなというような気もしましたが、あの地域の人たちからも、ちょっと不安材料として出ているものですから。それもちょっと検討に入れてもらいたいと思ひます。

まあ都市部に行って小さい学校で、機能的なものをつくるっていうことでしたらまた別ですが、その辺のところも検討の材料にしていいただければと思ひます。

(中村委員長)

それから多部制・単位制の必要性がまた再議論になるかもしれませんが、その辺のところは視察に行かれた委員さんのご意見も、またいただきながら進めたいと思いますが。

今の校地の面積に関しては、事務局側ではどうご判断されますでしょうか。坂城高校での転換の面積、屋代南での転換の面積、屋代南は可能性があるかどうか。

(柳澤教育主幹)

今、宮本委員さんからお話ございましたように、学校要覧に出ております敷地の面積から見ますと、今のお話のとおりでございますが。現有の校舎の施設の面から見ますと、6学級規模の学校というふうなことで、教室数については十分対応していけるだろうと、こんなふうに考えております。

(中村委員長)

ほかの観点でもよろしいのでお願いしたいと思いますが、ご意見、ありますでしょうか。

(丸山委員)

私、群馬のフレックス高校見させてもらったんですが、元女子校のところにそれを転換して新しい校舎ができてましたよね。そういうことについても多部制・単位制に、もし切り替わった場合がですね、そういうことは、考えられるのかどうかってこと。まあ今の校舎を使うのが基本ということなのか。

新しい多部制・単位制については、ちょっと総合学科とは違って、統合して総合学科になって、そこに今までやってきたことを生かそうというのはちょっと違って、要するに全く違う学校になるわけですね。そういう認識じゃないですか。学校自体も地域も。例えば名前がそのままだとしても、中身は全く違う学校なわけですよ。

そういう点で含めたら、やっぱりイメージ的にも、一定のお金がないと言うかもしれないけど、新しい校舎をつくって再スタートってことになるっていうほうがいいと思う、もしやるとしたらですよ。

そういうことについては、総合学科のとか、統廃合する場合のほかの施設の問題もありますけど、特に多部制・単位制については、ちょっと内容が特殊なものなので、一定のいろんな施設の改善というのが必要だと思うんですけど、それも含めて新設、校舎の新設ってことだと、考えられるのか、まだそれを検討してないのか、そこをちょっとお聞きしたい。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

ほかの統合の計画の折りにも申し上げましたように、基本としては現有の施設を利用しまして、それで当然ながら今もお話ございましたように、一部改修等、必要な部分につきましては改修を実施していくという前提でございます。

ですから多部制・単位制も、例えば自習室とかいろんな問題の中で、必要な改修があれば、当然ながらその改修は行ってまいります。

例えばの話が、改築とかそういうようなスタンスで考えれば、それぞれの学校の施設の状況を見ながら、従来のいわゆるルールにのっとった時期を見ての改修を行ってまいりたい、という前提で考えてまして。ですからその時期が来ているものは、当然ながら考えていかなければいけないと思いますが、その時期が来ていないものは、当面の一部改修にとどめたいという前提になっております。

（中村委員長）

一部改修というのは、例えば、見させていただいた高校というのは、かなり生徒たちのコミュニケーションのスペースですね、われわれ大学ではブラウジングコーナーとかそんな呼び方で呼んでいます、そういうのを付け加えていくというイメージ。それができるというイメージでよろしいのでしょうか。

（吉江高校教育課長）

学校が特定しませんと、必要なものがどの程度、その学校の施設規模につきまして状況が違いますから、一概には言えないとは思っていますが。

ベースはやはりそれぞれの多部制・単位制の場合には、空き時間を活用した空間というようなものが、何らかの形で必要だと思っております。

例えばそれが自習室とかそういうような、今委員長さんからお話いただいたような形とは違う意味で、そういうような施設も必要かと思えますから。そこをどこに配置できるか、そこをどういうふうな間仕切りが、場合によれば必要になるかというようなことは、考えていきたいと思しますので。必要がある部分につきましては手を着け、またそのままでいい所はそのままで使っていきたいという前提であります。

（小山（壽）委員）

要望ですが、やはり新しい学校をつくっていく、ということをしていくわけですから、やはりそれなりに、お金をかけていくということは必要じゃないかと私は思っています。今の段階で、さしてお金をかけなくて済むところもあるかもしれないし、また場合によって、お金をかけなければいけないところも出てくるだろうと思っております。

資産の中で23億の経費が節減されると、これはランニングコストですので、毎年23億ずつ浮いていくと。まあこれは計算ですので、実際にどうなるかというのは、別問題ですが。その削減された経費はすべて、教育に再投下はされないのかと。ぜひ全額とは言わないまでも、新しい学校づくりの中に、再投下される部分がなければいけないんじゃないか。そんなふうに思っておりますし、そんな要望をさせていただきたいなあと思います。

（中村委員長）

すみません、事務局にお考え聞いたほうが。

(小山(壽)委員)

いや、いいです。要望ですから。

(丸山委員)

前にこの議論なったときに言いましたが、多部制・単位制について私の考えもう一遍言いますが。今の問題ちょっと関連するんです。私、何で新しい校舎を造ったほうがいいって言ったかという、いわゆる普通の統廃合とは違うんですよ、全然イメージが。だからどこの学校にするかっていうのは、余計難しいんですよ。

つまり全く違う学校になるということを考えなきゃいけないと思うんですね。全日制を多部制・単位制にするってことは、全く違う学校をつくるということにならざるを得ない、中身的に言うよね。そういう点で言えば、やっぱりそういう考えかたでスタートするほうがいい。もしやるとしたらですよ。

だから、ほかの推進委員会でも出てるようですが、半分冗談のように聞こえるかもしれませんが、駅前ビルを買ったらどうだっていうことだってあるわけですよ。本当に必要だったらですね。

ただ、多部制・単位制もう一遍考えてほしいのは、私は視察に行かせてもらいましたが、確かに雰囲気的に非常にいいですよ。少人数で和気あいあいとやっている。でもそれは多部制・単位制じゃないんですよ。定時制というか少人数だからなんですよ。それは定時制、今の夜間定時制でも十分そういうことが機能しているわけですよ。私単純に言いますと多部制・単位制のどこがいいのかっていうか、いいって言うんですね、あんまりないと思うんですよ。1つは単位制だということだと思うんです。

それからもう1つは、昼、午前行く、午後行く、夜行くというそういうふうになっているところなんです。でもそれは、そんなにそのメリットがあるのか、あるいはそんなにニーズがあるのかっていうことを考えると、そうはないと思うんですよ。だから無理して、無理して、前から言っているように、無理して1つの学校を全日制を転換してつくるといことは、その学校を、結局それはね、いろいろ理屈を付けても、その学校を廃止することなんですよ。そういうふうにとらえないとだめですよ。総合学科と一緒にするのは違いますよ。

だからそういう点をやっぱり考えるとね、その多部制・単位制を無理してつくっていくのは非常に困難な、どこの学校に当てはめたとしても非常に難しいというのが、現状だと思うんですね。

だから、例えば、今ある定時制にそういう分野を少し入れながら充実させるっていうことをね、真剣に考えたほうがいい。それは今日のところにもありますが、自律支援学級の方々の要望もありますが、そういうその定時制が担っている貴重なこの役割、そのところをもっともっと充実させるということですね。十分ね、多部制・単位制をつくる意味も吸収できると思います。

そういうふう考えたほうがいい、そうじゃないと、どこにつくるかって言っても、結局、どの学校もつづすかって話になるんで、繰り返しですけど、そのつづすってことは、つづすって言うか、多部制・単位制ってことは、そういう考え方に結局なるので。

例えば、いろいろ話を聞いてますけど、名前が挙がっているような学校では、この地

区ではないですが、挙がっているような学校では、例えば同窓会なんかはね、じゃあ、もう同窓会はうちもこれで終わりだと。名前が同じでもこれはこれで終わりだというぐらいの気持ちを同窓会員の人たちが持っている。そうですよ。やっぱり全日制だったのが、多部制・単位制になれば、これはもう違う学校だというふうにね、皆さん考えられる。そういう点では非常にね、強引にこうどっかに付けていくっていうのは非常に難しい。

だからなかなか私もどっかにつくるときに、どこか名前挙げろって言われても、なかなか出てこないですよ。どっかの施設を使って、例えば県の施設で余っているところを使うってなことも含めて、考えられないのかなっていうように思います。

（中村委員長）

ほかにご意見ございますでしょうか。

完全にその学校のやってきたことをなくすのかどうか、そこはちょっとわかりませんが、かなり自由度がありますし、何回も言いますが、つくってから努力してよくしていく部分っていうのも大きいと思うんですね。

例えば、たまたま今日の資料にあります、屋代南高校の意見書というのをいただいております。そこにあるように「被服科がライフデザイン科に改変され、服飾文化の知識・技術の学習、生活産業の基礎の習得、あと、さらなる充実を目指しております」。こういうのは、単位制になったからできないっていうわけじゃありませんし、普通科だけでやらなくてもよろしいことかなと思います。

まあ、もちろんこれはそういう勉強する機会を充実していくっていうことは、もう単位制だろうが普通科だろうが、あまり変わらないんじゃないかなあと思いますが。たまたま資料がここにありましたので。高校の名前と関係ないところだと思います。

（塚田委員）

私も多部制・単位制というのは必要だと思います。

このあいだ松本筑摩高校を実際に見学させていただいて、ただそのときに校長先生も言っておられたのは、あそこは全日制と多部制・単位制が一緒だったですね。ですのでそれだと正直言って、生徒たちがこう何て言うんですか、両方ともこう生き生きして仲良くということではなくて、交流がやはりあまりないということで。全日制と多部制・単位制が一緒というのはちょっとやりにくいというようなことを、おっしゃっておられました。

ということでは、やはり多部制・単位制はそれなりに1校設けたほうがいいのかという感じはしています。

それから全く違う高校に生まれ変わるんだという、今、丸山先生のお話ですが、それは全くそうだと思います。それは例えば今統合の話がありますけども、統合してどちらが残るということではなくて、県教委のほうも、そのところは強調してますが、統合して新たな学校が誕生するんだということを。これはやっぱりわれわれも認識しなきゃいけないことだと思います。

それについて同窓生がどういうふうに思っているっていうのは、それはまあ取り方だと思いますが、やはり統合というようなことでも、新しい学校が誕生するというふうなことは、当然のことじゃないかなあ、と思っております。

(清水委員)

多部制・単位制の良さというか、そういったものも私は十分理解、十分ということでもないですが、ある程度理解しているつもりです。今現在、須坂高校もすでに平成 16 年ですが、募集を停止して定時制なくなっておりまして、現在 15 人の在校生いるわけですが、そのうちの 11 人が過去に不登校経験者だという実態がございます。

私思うんですけども、そういったさまざまな事情を抱えていることも、あるいは私は先日、静岡中央高校を拝見させていただいて、見学させていただき、さらにはもっと前向きっていう、そういう表現の仕方はまずいと思いますが、自分の計画、人生の計画と言いますかね、単位制というシステムを、うまく利用しているお子さんがいるっていうのを見学させていただきました。

つまり、あと 1 年で、あともう 1 つか 2 つ単位を取れば、卒業できるんだけど、ちょっとここで海外へ研修に行きたいとか、そういったような希望を持って、休学というような形を取るんでしょうか。自由にそういった選択をしているというのは、これまた 1 つの新しい、やっぱり教育のあり方なのかなあ、とも思えたわけです。

要は、先ほど須坂高校の例もありましたように、そういった子たちも含め、また今申し上げました自分の生活パターンに合わせた授業の取り方、そういったものも併せて考えると、こういった多部制・単位制の要素をとというのは今後、やはり県内においても、必要な部分になってくるのではないかと。ますますそういった子たちが増えてくるのではないかなあ、という気がしております。

ただ、やはり、今の現状の定時制というものは、その名のとおり夜間に集中しているわけなんですけど、それをなんとか前にも私、この委員会で発言をさせていただいた記憶があるし、ただいま丸山先生のほうからお話もありましたが、なんとか既存の定時制がある学校の充実というものを図っていくことによって、新たにその多部制・単位制の学校をつくるって言いますか、ある学校を多部制・単位制に変えるということは避けたほうがいいんじゃないかなあという感を抱いてくるわけです。

静岡中央の場合も完全な新設でございました。非常に広い敷地に、いつも驚くほど大勢の先生方が待機しておられるし、子どもたちも自分が取りたいと思うような授業の空き時間を利用して、それぞれ友達同士で話をしたり、本を読むなり、非常にある意味大学のキャンパスのような、そんなイメージを持って帰ってきたわけです。

新設校でできるのであれば、多部制・単位制の高校をつくるってことは大賛成ですが、今の現状、この県内においてそういったことではございませんので、なんとか現存している定時制の充実ということで、その多部制・単位制の要素を取り入れた充実を図ることはできないかなあ、ということをお願いしたい。

と同時に、もう 1 点はやはり先ほど塚田委員さんからも話ありましたが、中には全日制のお子さんたちと、あえて交流を持ちたくないっていう考えも中にはあります。それと同時に、少人数だからこそ通えるっていう子どももいるわけですね。ですから県内にどこでもいいですが、例えば、長野吉田高校の戸隠分校のようなものを、ぜひとも残していただければありがたいと私は思っております。

(中村委員長)

現存の定時制の充実というご意見が、丸山委員、清水委員から出ておりますが、今でもカリキュラムは大変なのではないでしょうか。それは単位制を導入するともっと教室の数が増えてくることになるかと思いますが、その辺いかがでしょうか、事務局。

(吉江高校教育課長)

先ほども委員さん方のご発言の中にございましたように、松本筑摩高校の場合は、今現在、全日制が3クラスしかございません。それで、その分あそこの学校は、当初は定時制で設置されまして、定時制で設置されたところに、生徒急増期の折の対応として、全日制が併設されたという形の状況でございます。それで今現在、全日がそれぐらいの数になってはおりますが、やはり校舎校地を全日とそれから多部の単位制で両方を使うということは、かなりの限界が正直申し上げてあると思っております。

ですから、今現在の夜間定時制、この夜間定時制につきましては、先ほども清水委員さんからもお話ございましたように、須坂高校では、平成16年から私どもは、いわゆる募集停止という形をとっておりますけれど、その折りの検討の中に夜間定時について、例えば0時間というような言い方をしておるんですが、本当ですと5時以降の授業を、もうちょっと早い時間に1時限ぐらい取って、それをすることによって例えばの話が今後4修制、いわゆる4年でないと卒業できないのを3年で卒業できるような方途がないかとか、そういうような意味での改善といえますか、それを実施はしております。

ただかしながら今議論いただいているような、多部制あるいは単位制というようなものまでに発展させるとするとすれば、やはり今現在の定時制ということでは限界があると考えている次第です。

(小山(元)委員)

私も先日群馬を視察させていただき、また、松本の筑摩高校を拝見させてもらったんですが。やはり先日も新聞報道ありましたが、高校生の不登校生も非常に数多く出てくると。ちょっと生徒の数忘れてしまったんですが、正確なものって多分400ちょっと越えたいくらかじゃないかと思いますが。

やはりこの多部制・単位制は、いわゆる働く生徒だけでなく、そういう不登校の子どもたちも大事に考えている、という最初のスタートのお話でありまして。やはり環境が変わると本当に立ち直って、喜んで学ぶ子どもたちが多くなってきているわけですね。ですから生徒たちが学びやすい条件を、やはり大事に整えてやるってことも、基本のところでは一番大事じゃないかと思えます。そういうところで、多部制・単位制を採用して、新しく設けるということについては、私は賛成の立場であります。

それやはり、そういう子どもたち、今の県内で、例えば第1通学区のところ、不登校生の多い地域または高校はどの辺になるんだろうかと、そういうことも考えたいわけです。やはりその子どもたちが通いやすいような、そういう地域、そういうのがひとつ大事な条件になってくるんじゃないかなと思いますし、交通の利便性ということも考えながら、私はどの学校って、校名はちょっと挙げるところではございませんが、そういう条件も考えながら、やはり大事に、設置するということは考えていく必要があるんじゃないかなあと

思います。

（森野副委員長）

やはり交通の便利性ということで、県教委さんどういうふうにお考えになっているのか。もし新設校がないとすれば、皐月高校。これ、20年度開校ですよ。そして総合学科ということになってますよね。単位制の総合学科と。2期制だということでもありますから、学ぼうとする子どもは、ここへ行けるわけですよ。それでなおかつ定時制はね、先ほどから出てますように残していただきたい。そんなふうに思っているわけです。

それから、こういう学校が県下多くなってきましたね。上田でしたかね。国際学院でしたか、これも通信制の高校ですよ。そういうふうな、やはり県で、縁がない、ないって言われるんならば、こういったね、ものを利用していかないといけないんじゃないかと。

だから皐月高校にしてもあれですかね、ちょっとお聞きしたいのは、教員は県で採用して県のほうで給料をお支払いしてるんだよね。長野市立でやるってあれですね、長野市立ってあれですかね、給料を払っているわけですかね。県費じゃないんですか。

（中村委員長）

事務局お願いします。

（吉江高校教育課長）

長野皐月高校の場合は、やはり長野市として採用されている方が全くいないとは申しません。教員といいますか、いわゆる教える立場ですね。

ただ基本的には、長野市さんとしての高校の教員の採用というのはされておりませんので、県のほうから派遣はしておりますが、人件費につきましてはすべて長野市さんのほうで持っていていただいているというような形でございます。

ただ、教員の配置等どうしても、一ところにずっと、というわけにはまいりません。そういうことから、私どものほうの人事の中でご相談に乗りつつ、させていただいているということでございます。

（森野副委員長）

ありがとうございました。まあそんな形で、身分保障をされているということでありますが、やはりいろいろ、この苦慮している状態の中で、皐月高校をうまく生かして、多部制・単位制というようなものを考えられないか、私は思うわけなんです、いかがなものでしょうか。

（中村委員長）

その前に先ほど、小山（元）委員から不登校生の多い地域というようなことでございましたが、以前出されていたのは、多分都市部ということですね、それは人口が多いからだと思います。

今の皐月高校の件はいかがでしょうか。県として整備していくっていう立場も、ひとつ

必要かなと思いますが、事務局は、お願いします。

（米澤教育次長）

不登校について地域的に差があるかという趣旨でのご質問ですが、例えば定時制などに入っている生徒さんの、確かに何割か、5割を超える方が中学校当時の不登校の経験者でございます。それは、今ある定時制との学校を見ても地域的に大きな差があるとは言えないかと思います。大体おしなべて5割ぐらいのところにありますので、まあ地域的に大きな差があるとはちょっと考えられないかと思います。

皐月高校について、長野県教育委員会として活用できないかという発想ですが、皐月高校は、2期制を導入されようとしています、あくまでも今総合学科ということでお考えのようです。また、総合学科ですのでももちろん単位制でございます。

多部制・単位制が考えようとしている時間的な、時間帯を柔軟に使えるというようなイメージでは、そこはございませんので。単位制という意味では同じであります、そこちょっとまた、われわれ県として、そこを視野に入れて考えるというふうにはならないと思います。

（小山（壽）委員）

不登校の問題ですが、本校も不登校生を受け入れております。それで、当然のことなれば照丘高校には本校よりも受け入れは多いと。率として、多いということになっております。

飯山地区の場合には、全日制の中で不登校の生徒を受け入れているということでもあります。恐らく丸山委員さんの学校も、不登校を受け入れていると思います。これは中学時の不登校であっても、全日制で受け入れているということでもあります。

中学時不登校、例えば1年2年のときに不登校あるいは保健室登校であった。だけど3年になると、試験を受けなきゃいけない。あるいは教室に戻ってこない、高校に行って本当にクラスに出れるのかとプレッシャーをかけられて、3年の後半は出ていた。それで高校へ入ったが、また息切れして不登校になるということは、いくらでもあるわけで、不登校であるから全日制は受け入れず、定時制のみで受け入れている、そういう状況は全くございません。

ただ定時制の不登校生の占める率が高いと、不登校生は定時制に行かなければだめなんだという、そういう状況には今、どの地区においても、そういう状況はないと考えただければと思います。

（坂口委員）

お願いします。私も先日、先ほどお話に出た静岡の中央高校に、行かさせていただいて、全く新しい学校としてスタートしていると。それだけに設備も非常にすばらしいもので、ああ長野県でもこういうような形でスタートできればいいなというようなことを思っていました。

そういう中で、生徒指導の問題あるいは部活動のあり方、いろんな課題はあるけれども、やはり、今の不登校の問題が出ましたが、義務でもやはり深刻といえますが、大きな課題

として受け止めております。そういった学校不適應生徒あるいは学習不適應生徒も、ひとつ柔軟にこう対応していただける、そういう多部制・単位制高校の設置というものは、非常に大事な方向ではないかなと思います。

それは最終報告ですよね、この高校改革プランの20ページもそのことについて出ておりますが、長野県にふさわしい多部制・単位制高校についても報告書も出されていると、その中に3つの基本方針が書かれているわけでありますが、このやはり理念は大事にしていただきながら、それをそれぞれの地域に生かして、具体的な学校運営をしていってもらえれば、非常に中学校側としてもありがたいかなあと思います。

学びの場の保障。それが生涯学習、一生こう学び続けるというような意味においても、非常に大きな位置を、あるいは場所として、設置していただければありがたいかなと。もちろんいろんな意味から課題も多いかと思いますが、やはり子どもたちの多様なニーズ、少しでも対応していただけるこの高校はありがたいなと思います。

ただ、どの問題にもかかわるわけでありますが、4通学区同時にというようなことについては、ちょっと果たしてそれが可能なのか、それから場所ということについても、これは子どもたちが行きやすい場所ということを、4つの通学区で関連を持ちながら、設置していく。どの場所にということは大事な観点であるかなというように思っております。ぜひともこの理念は、ぜひ大事にしていただきながら、具体化してほしいなあと。そういう願いでございます。

(丸山委員)

多部制・単位制が必要であるとかね、その理念を生かしてってことは、私もわからないわけではありません。

ただそのところはもう少し、厳密に言えば、私は考えてほしいと思います。全く新しい学校を造ってですよ、全く独立校舎で。最初にあったとおり、独立した学校として造っていくってことはありえるかもしれませんが、それがかなり難しいわけですよ。なぜかというともう一遍言いますけど、1つの学校をつぶすわけですよ。

これは後で県教委には答えてほしいのですが、多部制・単位制の学級数は、多部制・単位制をつくる場合、多部制・単位制の学級数は募集定員の中に組み込むんですか。

まあ定時制はいわゆる組み込んでないですよ。まあ一応考慮はするけど、例えば何学級減とかこれだけ減ったから何学級減にするとかね、増にするとかっていうときに、あんまり定時制のことはあんまり計算しないと思うんですよ。定時制これだけ行くからどうだってことはしないと思うんですよ。多部制・単位制は、その学級数をきちんと募集定員の中に入れるのかどうかって問題ですよ。

そういうことも考えていくと、1つの全日制の1つの学校がつぶれてその分なくなって、その分が十分そこに、何学級にするかって問題ありますが、今のように不登校の生徒やその他のいろんな問題抱えて、学校に行きにくいような生徒たちが行けるような学校をつくるってことです。そういう点では、募集定員をどうふうに考えられるのかを、組み込む全体の募集定員の中に組み込んで考えていくのかっていう問題が1つですね。

それからもう1つは、今言っている不登校生やいろんな問題抱えた子どもたちが行ける学校として、多部制・単位制をと言いますが、基本的には全日制がかなり今、担っているわけ

ですよ。担っているわけです。

だからそこを厳密に考えると、さっきも言いましたが、午前、午後、夜と置くところが、特徴があるわけですよ。

でもそれはだから、そういうふうには造れない。いろいろ困難だね。1つの学校をつぶして転換するっていう困難さがあるので、そういうことで言ったら、午前、午後じゃなくて、今0時間って話があったけど、午後少し多めにやるとかいうことでね。

午後と夜の2部とか、そういう形のものや、もちろん単位制はちょっと困難だっていうふうに県教委言ったけど、それはよくわからないんで。まあ、単位制を入れたり、その夜じゃなくて、午後の部を少し入れたりしながら、3年卒業ということもできるような、そういう定時制の充実っていうことはできないのかどうかね。

そうすると多部制・単位制って言わないのかもしれませんが、多部制・単位制的な特徴というか、メリットは入れているということは、入れていくということではないのか。そういう点では定時制の充実、そうすると不登校生でも、不登校生は絶対に午前中に行かなきゃならないとかね、午後に行かなきゃならないってことはないと思うんですよ。しかも夜じゃないほうがいいってこともあるかもしれませんが、わざわざ夜じゃなくてもいいってことあるかもしれません。

それからもうひとつは、ひとつ言われていますけど質問したいのは、今の定時制で夜間定時制で独立校舎を持っているっていう完全っていうか、ほぼ完全な独立校舎を持っているっていう学校はあるのかなのか。あるとしたらこの地区ではどこか。ちょっと知りたいということです。

ただ質問は、それ今の問題と、それから多部制・単位制の問題を、募集定員を、全体の募集定員に組み込んで計算をするのかという点です。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

ひとつといたしまして、まず大前提を申し上げたいのですが、先ほど議論が出ておりましたが、私もまずは県全体でいきますと、再編整備で先ほども話しておりましたから、長野県月を入れさせていただいて、90校の全日制を14校統合しまして76校にしたいと。それで76校にした上で、そのうちの4校を多部制・単位制という位置付けとすれば、定時制という位置付けのものに転換して、トータル80校にして、10校を統合したいというような案でございます。それが大前提ということは、まずはご理解いただきたいと思います。

その上でお答えしますと、多部制・単位制というのは、先ほども申し上げましたように、基本的には、一応位置付けは定時制という位置付けになりますので、従来からの募集定員と同様に、いわゆる全日制としての募集定員とは今後も分けて考えていく必要が、大前提はまずあると思っております。

今現在は、約、定時の場合が1,000人ぐらいというような募集定員になっておりますが、それに前後するぐらいの数字で恐らくはなると思っております。

ただ、もう1点申し上げるとしますと、この多部制・単位制というのはそういうことで、位置づけは定時の位置付けにはなっておりますが、恐らくは全日制と夜間定時制の間にあるものであろうと考えてます。

ですからそれを考えれば、スタート時点におきましては、今申し上げたような形で、全日と定時での募集の数字の区分けはしますが、今後の状況の推移によりまして、それはある程度議論していく必要性は全くない、とは考えおりません。

それで、もう1点、いわゆる独立校舎という言葉で申し上げますと、私どもの位置付けとしては、独立校舎ということではないんですが、併設する一部校舎を利用して、今現在単位制を展開している高等学校はございます。

ただかしながら現時点におきまして、そういうような学校におきまして、十分な授業展開をする場合には、先ほど申し上げました、校地校舎の利用とかそういうようなことでの工面とかは、十分な体制になっておりませんので、多部という意味での、例えば午前、午後、夜間というような形に分けてというようなものの運営は、できていないのが現状でございます。

(宮本委員)

不登校生のことについて出ていますが、中学生の中にいますと、不登校生が何人かいるわけです。もちろんいろんな生徒がいまして、一概に決められるような状況ではないのです。

進路に当たりましては、今話が出ていますように、だいたいの生徒は全日制、昼間の学校を入学したいというのが第1希望です。

それでなかなか、その状況、やはり倍率関係とかありまして、垣根が高いということもありまして、そんなことで、夜間の定時制に行く生徒も多いわけですが、やはりそういうネックになるのが「夜間」なんです。夜行くのってということもありまして。そんなことで定時制を渋る生徒も何人かおります。全員ではありませんけど、そんなことであります。

もうひとつ、以前も私、出しましたけれども、考えてほしいのは、高校在学中のドロップアウトというか退学生の数です。学年制を積んでますので、ぜひ単位制ということで考えて、いろんな生徒に合った単位制の学校制度っていうのを取り入れてほしいなことで、多部制・単位制の学校の設置について賛成します。

それと、最近いろんな学校で学年が進むにつれて、単位制とはいきませんが、コース制やいろいろと生徒が授業を選択するという場面がありますので、ぜひそんなことでも多部制・単位制、もちろん多部制・単位制っていう定義についても、長野県はまた違うと思いますが、また学校によっても、造っていくことで、新しい形式はできると思いますが、柔軟に考えてほしいなあとと思います。

もう1つですが、最終報告に載っていますが、そこに先ほども出しましたが、長野県にふさわしい多部制・単位制高校ってことで、第1基本方針として提案しているのが、地域との融合という点について、これはやはりこのことを考えると、場所についてですけども、やはり地域を選ばなければいけないのかなっていう気がいたします。あの議論の1つになるんじゃないかなと思います。以上です。

(中村委員長)

多部制・単位制は必要ない、定時制を充実していく方向が出されていますが、やはり視察をされてきた委員さんを中心に、多部制・単位制・単位制は必要である。魅力として必要なんじゃないか、という方向だと思います。

私はもうひとつ必要な理由、これはもう前から挙がっていると思うんですけども。生徒が多様な学びに対応しているということですね。そのところをもう少し強調したいと思います。

中学生のアンケート結果、中間報告に載ってましたが、基礎、基本を1から教えてくれる高校というような希望がかなり大きかったと思いますね。

これが例えば、全日制普通科のような形で、ある程度の人数、今、宮本委員のご意見では少し選択をしたり、クラスを分けたりということがあろうかとは思いますが、同時に大勢の高校生の教育をしていくのと、それぞれの学びのスタイルに応じて選択して単位を取りながら、高校の勉強をしていく。こっちのほうもぜひそういうタイプの高校も必要ではないかな。

大学生を教えていてよくわかりますが、理解力の差っていうのはかなり大きいです。学力の差っていうのが入試でかなり狭い範囲に、大学はそろって入ってきますが、理解力のスピードの差、これは結構大きい。ですから同一の授業でどんどんやっけてしまいますと、やはり理解が不足して間に合わない。勉強が間に合わない子が出てくる。それにはやはり、単位を積み重ねてというタイプでじっくり勉強できるほうが、結果的には最終的な目標が高くなるんじゃないかと思います。

それと視察された方はお気づきのように、全部の定時制集めて多部制・単位制の高校を1つつくってとなると、大人数になってしまう。少人数教育のメリットを生かせないという点は、もう大丈夫ですよ、見た限りでは、そこまで少人数かっていうぐらい少ない規模で授業がされてました。

それからこれも大学生のことで申し分けないのですが、小集団不適應というのもあります。大人数のクラスで勉強しているときはいいんですが、研究室に配属されて数人のゼミってなると、出てこれなくなってしまう子が大学生にも若干おられます。不登校になってしまいます。

こういう面もありますから、やはり多様な学び多様な規模に。対応した高校はぜひ、新しいタイプの高校として、設置も必要じゃないかなあと。それがシステムとしての魅力の1つになっていくんじゃないかなあとと思います。

今、宮本委員から出たように地域との関係で、設置場所というのが課題になる。それから交通の便っていうのも以前から出ていたということで、議論を元に戻したいと思うんですけど、設置する方向でぜひ、場所のことでご議論を少し具体的にお願いしたいと思います。

なかなか難しいと思いますが、ひとまず候補案として挙がっている坂城高校それから委員会においては屋代南高校の具体名が挙がっている、この辺について、ご意見をもう少しいただきたいと思います。

(清水委員)

ただいま委員長さんのお話ですが、ちょっとその前に非常に根本的なことをお聞きするようで大変恐縮ですが、多部制・単位制っていうものをずっと論じている中で、今日までセットになっておるんですよね、多部制・単位制というものが1つになっている。それを例えば分けるということはできないのかと考えています。

というのは現に、須坂高校の場合を申し上げますと、単位制を取りつつあります。すでに取りはじめており、ちょっとほかの高校さんのことについてはちょっと私はわかりませんが、やはりまさに委員長さんがおっしゃったように、自分が学びたい科目を選択できるっていうものを、普通高校の中でもこう取り入れていける、またいつている。またそういった傾向にもあるということからすれば、単位制と多部制をなにも1つのくくりとして考える必要が本当にあるのかなと、私疑問に思ったんですけれども。

その辺について、何かご回答いただける方があればお願いしたいんですが。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(吉江高校教育課長)

ひとつとしまして、別個に考えるとすれば、全日制にこれから単位制が設置することというのは、もちろん別問題としては可能だと考えられます。

具体的に申し上げますと、今そういうようなご要望を内々にいただいているような、今現在も、全日制のお話もありましたように、今後どういような形で導入するかということ、を考えていかなければいけないと思っております。

それで単位制を少し広げれば、これは総合学科高校になります。ある意味ですね。それをどの辺までで納めるかということで、単なる単位制の学校かあるいは広く系列も入れたということで総合学科高校、それが1点です。

それと多部制と単位制をあえて議論するとしますと、定時制そのものを午前部、午後部、夜間部ということで分ける。それで分けて単位制にするメリットというのは、それによって十分3年で卒業できる道が開ける、ということが関係あります。

これが学年進行の形での多部制でございますと、もちろん0時間とかそういうような工夫は仮に今後したとしても、恐らく午前部の方は、午後部の教科をある程度取らないと3年生で卒業できません。あるいは午後部の方は午前部なり夜間部をとらないと卒業できないという問題がありますので、今後の、先ほどありました留年というような形がなく、所定の単位を取って、3ヶ年度で卒業できるものを視野に入れて、また生活のパターンあるいはご自分の行動パターンも考えて、いわゆるフレックス的に考えられる場合には、定時における今後の発展系は、多部制と単位制のセットである、と考える次第でございます。

(中村委員長)

静岡県立静岡中央高校の視察をさせていただいたときに、開校時は単位制をかなり強く主張したというお話があったのですが、これはどういうことで単位制を、単位制のメリットが大きいからというのでしょうか。ちょっと突然の質問ですが、お願いします。

(吉江高校教育課長)

1 つ私ども今後の方向としまして、定時制につきまして、ある程度は単位制を広げていきたい、という考えも持っております。

それでそのような形を広げることによりまして、恐らく転学というようなものも、当然その単位を取得したという前提で可能でございますので、それを入れることによりまして、仮に今現在の学年制であれば進級できないお子さんが、ほかの学校に行って取得することによって、3 力年なり 4 力年で卒業できるというようなフォローがあるというようなことを考えた場合には、ある程度以上単位制はとりわけ定時制とか、そのような部分においては、非常に大きな要素ではないかと考えてございます。

(小山(壽)委員)

今、実際に単位制を導入しているという制度は長野商業と松本筑摩。2 つはもう完全な単位制を取り入れてます。だから単位制の定時制高校ですね。

上田高校は 0 時間目を張り出していますので、0 時間目を張り出すことによって、3 年間での卒業が可能です。これは単位制というほどではありませんが、法的には 76 単位の法単位を修得して、必修科目をクリアしてればこれは卒業資格があるわけで、それを校長が認定するかどうかということですので、学校の工夫によってそれはいくらでも可能である。

学年制を取りながら単位制的な要素を取り入れる。例えば通信制と定時制を併修する。あるいは、高校卒業程度資格認定試験を学校のその科目履修と併せて、それを行っていくというようなことを進めて行けば、実は 0 時間目の授業を取らなくても、卒業は可能である。

ただそのためには学校が、それを進級単位として認定しますよという学校としての決まりを設定していく必要がある。この決まりをそれぞれの学校が、今先ほど課長さんだったでしたかね、お話がありましたが、平成 16 年度くらいからかなり実行しちゃっている。

これ実はもっとルートをとると、平成 7、8 年ぐらいからそんな試みを公的には可能になったものですからしていったのですが、なかなか制度として広がらなかった。これを実際に平成 16 年ぐらいからさまざまな学校が定時制においては、取り組んでいっていらっしゃる。ただそういう取り組みをしても、それを拡大していけば多部制対応かと、これはまた話は全然別なんですね。

(塚田委員)

まず最初にちょっと、しつこくなりますが、松本筑摩を見学させていただいたときに、校長先生の言葉、非常に印象的だったのですが、多部制・単位制は、通学に困難抱えている子どもたちにとっても、1 度白紙に戻せる。もっと今の子どもたち言葉でいうと、リセットして再出発できると。そういうシステムだという。特に自分の学校でもそういうことが可能で、生徒たちも、そういう生徒たちもいるということが、非常に印象的な言葉でした。

私はここで今回の議論の中で、この多部制・単位制ということでは、学校名として坂城とそれから屋代南と 2 つ挙がっているのですが、この 2 つの中で議論を進めていったらどうか、と提案をさせていただきたいと思います。

その上で、ちょっとご質問ですが、質問させていただきたいのですが、屋代南の名前が挙がったときも、質問させていただいたのですが、屋代南には被服科がありますが、これがあるということで、この屋代南をいわゆる多部制・単位制に転換をしていくときに、何か困難なり問題があるかどうかお聞きしたいのですが。

（米澤教育次長）

屋代南高校の被服科の扱いということでございますが、単位制になった場合、いろんな考え方ができると思います。

例えば多部制・単位制という中の選択科目として位置付けることも考えられるかと思いますが、あるいはこれは皆さんご議論の中で、例えば近隣のどこかの高校に持って行くことも可能だと思います。

従って、「あってできない」ということはないと思いますが、皆さまのご議論まだ考えてお願いしたいと思います。

（中沢委員）

多部制・単位制が1つこの学区にということで課題とされています。合併、学区制を考えると大事なことは、1番多いのが普通科を学ぶ人たちが70%以上いるということだろうと。そういう生徒たちが地域に根ざしたそういう高校へ通うということが大前提になるなと思います。

それでは、1区の中でその上るもの、例えば職業科の学校やあるいは多部制・単位制を、どういうふうに配置していくかということが大事なことだと。前々から申し上げてますように、こういった多部制・単位制のように、広範囲なところから学生が集まるところは、市街地であることがなによりも求められると。そうするならばそれは長野市のように利便性もあり、高校も幾つかある中で、まず考えられないかなあと。そしてさらに須坂や千曲市のように普通高校が2校あるような、そういうところへの視点を合わせて、そして皆さんに提案してほしいということを、前々から何度か申し上げているわけでございます。

ですから、すぐ屋代、坂城ということでなくて、もう1度原点に帰って、どこの地域が1番子どもたちが通いよくて、そして集めるのかということは、この前の委員会でもある程度方向性が出てきたように、私は理解をしているわけでございます。ですからそういった面での論議を少し詰めた上においての話をお願いできないかと思います。

たまたま先ほど長野南、あるいは松代高校の話もありました。まあいろいろ難しい場所で、利便性はいまいちであるということは、承知しておりますが、そうした中で、先ほどご提案のように、そのそこに定時制があればそういったものをより深めていったらどうかというご提案も出ておりますので、少しそういう面からの標的な位置付けを、はっきりさせさせていただいたほうがいいなあと、このように思います。

（中沢委員長）

はいちょうど時間が来ております。まとめていただいてありがとうございました。

今の中沢委員にまとめていただいたように、観点を、この継続でまた次回議論を進めていただきたいと思います。

今日、新たに松代ということもありましたし、少し皆さんでお考えいただいて、4 区を中心にまた 3 区もかかわってこようかと思えます。今 2 区の話も出ましたが、その辺もまた関係するところがあればそこを出していただきながら、次回。

次回が年内最後になりますが、ご議論をお願いしたいと思います。今日はこの辺で。何かほかにございますでしょうか。進め方はいかがですか。

(小山 (壽) 委員)

1 度長野市に多部制・単位制を設置できないかということ、議論したと思いましたね。

(中村委員長)

議論しましたね。

(小山 (壽) 委員)

ちょっとそこに戻ってまたそれをやるというのはね。この時期になって、出されたほうがいいんじゃないかなあと思うんですけど。当然さらにどうしてもということであれば、それはそれで結構です。

基本的には議論してきたことについては、できるだけ戻らないと言うことで限られた時間の中で議論していくと。

(中村委員長)

少々、議論してから回数があいてしまいましたので、復習の意味も含めて今日は少し出ましたので、委員の皆さん議論の経過をお考えいただいていると思いますので、長野市内で、またすばらしい案があれば、それが出てくるとのことだと思いますので、そういうことも含めて、次回ご議論いただきたいと思います。

ほかにありますか。なければ事務局のほうから次回の日程について、お願いします。

(三澤教育支援主事)

次回の日程でござりますが、前回のところで一応今月 12 月の 3 回分の日程をご提示いたしましたが、今のところ前回お話してある 12 月の 25 日に、日曜日になりますが、午前中ということをお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

(中村委員長)

25 日午前中ということですが、よろしいでしょうか。

何かほかにございますでしょうか。

それでは以上をもちまして、第 14 回の高等学校改革プランの推進委員会を閉会させていただきます。皆さんお疲れさまでした。